

働くとは何かを考える

ーディーセント・ワーク (Decent Work) をめざそうー

株式会社 開倫塾

代表取締役 社長 林 明夫

(社団法人経済同友会 幹事 学校と企業

経営者の交流推進委員会 運営委員)

1. はじめにー本講義のねらいー

(1) 講師の経験を通して「これからの社会で求められている人間像とは何か、将来社会に出て働くにあたって今どのような力を養っておくことが大切なのか」「働くとは何か」をお話しますのでいっしょに考えてみましょう。

「求められている人材像ーそのために必要な学びとは」「働くとは何か」をいっしょに考えることが、本日の講義のねらいです。

(2) 働くとは何かを考える場合にとっても参考になるのは、「ディーセント・ワーク (decent work)」という考えです。

①ディーセント (decent) は、「適正な」とか「まともな」という意味の英語です。これに、ワーク (work) つまり「仕事」「労働」がついてディーセント・ワーク (decent work) になり「適正な仕事」「まともな仕事」という意味になります。より本質的には、「ディーセント・ワーク (decent work)」は「人間としての尊厳をもった仕事」という意味だと私は思います。

②私は「働くとは何か」を考える場合に、この「ディーセント・ワーク (decent work)」を目指すべきではないかと考えます。

(a) この「ディーセント・ワーク」には様々な意味があります。児童労働や女性差別、人種による差別のある仕事は、とても「適正な仕事」「人間としての尊厳をもった仕事」とは言えませんので、「ディーセント・ワーク」とは考えられません。

(b) では、経済の発展した日本では何をもって「ディーセント・ワーク (decent work)」、つまり「適正な仕事」「人間としての尊厳をもった仕事」と言えるのでしょうか。私は、「生活できる収入が得られて、自己実現できる仕事」ではないかと考えます。

(c) 今日は、これから、「ディーセント・ワーク (decent work)」、つまり「生活できる収入が得られて、自己実現できる仕事」とは何か、そしてまた、どのようにしたらこの「ディーセント・ワーク (decent work)」に就くことができるかを、ごいっしょに考えていきたいと思います。

2. 仕事をする目的は何か－「収入を得る」「自己実現」－

- (1) 「仕事」をする目的の第1は何か。それは、「収入を得るため」です。それも「生活できるだけの収入を得る」ことが、「仕事」をする第1の目的だと私は考えます。
- (2) 「仕事」とは何か、皆さんは考えたことがありますか。
- ①「仕事」とは「お客様のお役に立つこと」です。仕事をした結果、お客様のお役に立つ、特に、お客様が困っている問題を解決することにお役に立って初めて、仕事をしたこととなります。
- ②お客様のことを考えずに、自分の都合でやりたいことをやっていたのでは仕事とは言えません。また、世の中は毎日のようにどんどん変化していきますので、お客様のお役に立つこと、お客様が困っていること・お客様の抱えている問題もどんどん変化していきます。ですから、世の中がどのように変化しているのかを観察し続けて、どうしたらお客様の役に立てるのだろうか、どうしたらお客様が困っていること・お客様の問題解決のためにお役に立てるのだろうかと考え続けて、初めて、仕事をしたこととなります。
- ③ただ、それだけでは足りません。お客様の負担にならない値段でなければなりません。余り高いと、誰も買えませんからね。また、お客様にとって不便な場所でも困ります。便利なところで、ものやサービスを提供しなければなりません。更に、いくらよいお仕事をしても、それをお客様に知っていただかなければ買ってはいただけませんので、広告や宣伝、営業も必要となってきます。お客様とのコミュニケーションがあって初めて、仕事を知っていただけるからです。
- ④このように、「仕事をするのは収入を得るため」ではありますが、その収入のもとになるのは、お客様から代金つまりお金がいただけることですので、その代金つまりお金をいただくためには、それなりの仕事の内容がなければなりません。お客様の問題解決のためにお役に立つこと。お客様の負担が余り多くない価格(値段)であること。便利なところで提供すること。お客様とのコミュニケーションを通して、仕事の内容、つまりものやサービスの内容を知っていただくことが大切です。
- ⑤同じような仕事をしてものやサービスを提供するところは、自分たちが働いているところだけではなく他にもありますので、他のところと競争をしなければなりません。知恵を出し合い、創意工夫をし続け、もっとよいものやサービスを、もっと安い価格(値段)で、より便利な方法でお客様にお届けしなければなりません。テレビや新聞のチラシなどで、新しいものやサービスの広告がたくさん見られるのはそのためです。
- ⑥皆様のご家族やお知り合いの方の中で、「営業」というお仕事をなさっている方がたくさんいらっしゃると思います。その「営業」のお仕事は、「こんなに素晴らしいものやサービスがありますので、是非ご利用下さい」とお客様に紹介する大切なお仕事です。いくらよいものやサービスを用意しても、お金を出してそれを買って下さるお客様がいなかったら何の意味もありません。働いている人は収入を得ることができません。ですから、「宣伝」や「営業」はとても大切な仕事なのです。「営業」をしながらお客様の本当の希望もお聞きできますから、ものをつくったりサービスを考えたりする上でも「営業」のお仕事は大切です。
- ⑦仕事をするもう一つの意味は、「仕事を通して自己実現するため」だと私は考えます。

人間には、自分と家族の生活を支えるために、「生活できるだけの収入」が必要です。ですから、「生活できるだけの収入を得るために仕事をする」ことは素晴らしく、尊いことです。

しかし、収入を得るだけのために仕事をすると思うのは、余りにも寂しいことです。私は、ここに「仕事を通して自己実現するため」を皆様には是非付け加えていただきたいと希望します。「ディーセント・ワーク(decent work)」つまり「適正な仕事」「人間としての尊厳をもった仕事」とは「生活できるだけの収入を得、自己実現できる仕事」という「定義(ことばの意味)」を、皆様にはもう一度思い返して考えていただきたいと希望します。

⑧では、どのようにしたら「仕事を通して自己実現する」ことができるのでしょうか。一つ一つの仕事には、「社会的使命(mission、ミッション)」があります。お客様のお役に立つ、お客様の困っていることを解決することにお役に立つことというのは、お客様に役立つことを通じて、つまりその仕事を通して「社会的使命(mission、ミッション)」を果たすことを意味します。

「仕事を通して自己実現する」とは、その仕事のお客様にとっての意味、さらには社会にとっての意味を知り、お客様や社会にとって役に立つことを知ることであると私は思います。仕事は「自分の生活をするだけの収入を得る」ことが第一の目的ではあるが、この仕事を通してお客様のお役に立つ、お客様のお役に立つことで社会のお役にも立つ、「社会的使命(mission、ミッション)」を果たすのだと考えることが、「仕事を通して自己実現する」ことだと私は考えます。

⑨私が皆様には是非お願いしたいことは、これから何年か先に皆様がお仕事にお就きになるときには、皆様のお仕事の「社会的使命(mission、ミッション)」とは何かをいつも考え続け、その「ミッション」の実現こそが皆様の「仕事を通しての自己実現である」とお考えいただきたいということです。お客様のお役に立つ、世の中のお役に立つ自分の仕事の社会における意味や役割を考えて仕事をする、仕事が楽しくなり、生きている意味を仕事に見い出せるようになります。

3. 今、養っておくべき能力とは

(1) 職場には就業時間前に到着すること。－学校にも始業時間前に到着すること。－

①「健康第一」(心の健康、身体の健康)

②「早寝、早起き、朝ごはん」バランスのよい食事を。

③遅刻、早退、欠席がないこと－「出席第一」

＊・病気は早く見つけて、病気と闘い、早く治るものであれば治すこと。

・病気にかかりにくい身体づくりをいつも心掛けること。

・外から帰ったら、手洗いとうがいを。

(2) 躰(しつけ)－礼儀作法(れいぎさほう)を身につけること。

①敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)

・職場では「です、ます」調で話します。

②美しい立居振舞い(たちいふるまい)

- ・「服装第一」
- ・職場の雰囲気合った服装やお客様を不愉快にさせない服装。
- * 「ダラシナ系」は普通認められません。

(3) メモをとり続け、そのメモを完全に身につけること。

① 仕事上の知識は、「教科書」としてまとめられていることはまずありません。上司や同僚・お客様からいただいて初めて身につくものがほとんどです。

② ノートブックを1冊用意して常に持ち歩き、打ち合わせや会議、仕事の上での必要なことはすべてメモをし続けること。電話を受けながらもメモを取り続けること。よくわからないことは、礼を尽くして、うんなるほどとよく「理解」できるまで教えていただくことが大切です。

* 学校で授業を受けるとき、必要なことはノートブックにどんどんメモを取るとよい訓練になります。あとで使いやすいようにメモを取ること、メモを整理することも大切です。

③ 一度ノートブックに取ったメモは、できればその日の内にすべて正確に身につけること。「定着」させること。「定着」の3つの意味。

- (a) 何も見ないでスラスラ言えること。
- (b) 何も見ないで楷書で正確に書けること。
- (c) 大切な計算は答えごと覚え、条件反射で出るまでにしておくこと。

④ 実際に「理解」し、「定着」したことを、翌日の仕事から使って「応用力」を身につけること。

* 学校での勉強と全く同じですね。

⑤ 時々、ノートブックの中に仕事の上で考えたことや反省したことをメモしておくこと。「自省」、「省察」、「熟慮」、「熟考」すること。英語でいうと「リフレクション(reflection)」も大事です。

(4) 新聞を読み考える習慣を身につけること。「新聞を読んで考える」

① 中学生時代は40分、中学を卒業したら毎日1時間は新聞を読んで考えよう。

② もしできれば、日本語でよくわかっている内容について「英字新聞」で毎日読む習慣を身につけよう。

③ これからの日本人の最大の取り組み課題は英語。特に、英語の聴き取り能力。「読んでわからないことは、聞いてもわからない。」質のよい英語の英字新聞を毎日読むことにより英語に慣れ、コミュニケーションの手段としての英語能力を身につけよう。

(5) よさを知る習慣を身につけよう

① 自分のよさを知り、自分のよさを伸ばすこと。

② 他人のよさを知り、自分のよさと同じように尊いものだと認める能力を身につけること。

③ 自分の家族の母校である小学校や今学んでいる駒留中学校のよさ、世田谷区のよさ、東京のよさ、日本のよさ、アジアのよさ、地球のよさを知る努力をすること。よさを知り、そのよさを率直に認め、尊いものとして大切にすること。

④ もちろん、解決すべき問題は多いとは思いますが、自分でできることは自分の責任で解決に向けての努力をすべきと考えます。

(6) 読書を－「書き抜き読書ノート」のすすめ－

- ①図書館を活用し、「読書」をすることをおすすめします。
- ②図書館で、学校の各科目の教科書に出てくるような人の本を捜し出して、少しずつ読んでみましょう。
- ③感銘を受けた文章、心に触れた文章、気に入った文章に出会ったら、たとえ一行でもよいですから「書き抜き読書ノート」に書き抜き、時々声に出して読んでみましょう。

(7) 自分の好きなことばを見つけたら、大切に大切にしましょう

- ①「ブルドック魂」 (足利市立山辺中学校の担任の岡田忠治先生)
- ②「自他共栄」 (足利市立山辺中学校の柔道部の椎名弘先生)
- ③「一所懸命」 (足利高校のマラソン大会の合い言葉)
- ④「独立自尊」 (慶應義塾大学の創始者福沢諭吉先生)
- ⑤「会った人は皆な友達」 (京都の一橙園の石川洋先生)
- ⑥「一生勉強、一生青春」 (足利市の書家 相田みつを先生)

(8) 母校の小学校や、駒留中学校の先生方やクラスメイトとの師弟関係や友情を大切に。

一生の恩師、一生の友達です。

(9) 「親」という字は、「木」の陰に「立」ち、子どもを「見」という意味もあるようです。親との関係も大切に。

(10) 「自立」から「自律」を。

- ①まずは、「自分の力で立つ力を身につける(自立)」こと。
- ②次に、「自分自身をコントロールする力を身につける(自律)」こと。
- ③ただ、「自律」はストレスが伴うので、美術活動、スポーツや旅行、その他健全な形での「息抜き(楽しみ)」を捜しておくことも大事。

(11) 一日に一回は、心を静かに机に向かう時間をもとう。

(12) 最後に一言。－仕事をする上だけでなく、人間として大切なこと－

- ①「法律」に反すること(違法行為)はしないこと。
(刑法に書いてあることをしないこと)人を殺すこと。傷害を与えること。暴行すること。物を盗むこと。人をだますこと。おどすこと。火を放つこと。
- ②「道徳」に反することもしないこと。「約束」は守ること。
- ③「思いやり」をもった行動を。(席を譲ること。物をもってあげること。他人の悪口を言わないこと。)
- ④「お礼」を述べること。感謝の気持ちをことばにあらわすこと。
- ⑤「仕事」だけでなく、「ボランティア活動」や「NPO活動」などの社会活動にも関心を。

皆様の成功の実現をお祈り申し上げます。ご静聴を感謝いたします。

以上